

March
2017

No. 25

赤レンガ通信

層雲峡氷瀑まつり

北海道
www.pref.hokkaido.lg.jp



北 北海道の大雪山連峰に位置する小さな町に毎年、氷と光の幻想的な世界が現れる。上川町は峡谷であるため、冬は昼間でも骨まで凍り付くような寒さだ。しかし町民は家に引きこもらず、その寒さを楽しめるような神秘的な世界を作った。それが層雲峡氷瀑まつりである。私は北海道に住む外国人の友人と一緒に、寒さに立ち向かい層雲峡へ行って来た。やはり想像を絶する寒さだったが、とても楽しい経験ができた。本当に行ってよかった！

札幌から旭川まではずっと青空だったが、大雪山に近づくにつれ空がどんどん暗くなり、雪が降り始めた。到着後、勇敢な人はスノーシューで山に繰り出し、そこまでたくましくない人たちはホテルのロビーに集まって編み物したり、しゃべったり、お菓子をつまんだりして暖を取った。編み物とスノーシューのアドベンチャーを終えると、ホテルの温泉へ。私は、温泉は北海道の寒い冬をしのぐ一番の方法だと思う。露天風呂で雪を見ながらのんびりと湯に浸かるのは至福のひとつだ。

温泉で暖まってバイキングで限界まで食べた後、また寒い外に出ることにした。もう一度暖かい服を着込んで、祭り

の会場へ向かった。北極圏にいるような寒さで、峡谷からの光はオーロラみたいだった。石狩川のそばにある会場に降りた。骨組に霧状の水を夜通しかけ続け、すべての建造物は氷で造られているので、前衛美術的な感じだった。氷の酒場から氷の神社まで、全て幻想的な光で彩られていた。建造物の中には、鋭く尖ったつららがたくさん天井から垂れ下がっていたので少し怖かったが、きらきらしてとてもきれいだった。

氷像の上に上がった花火は美しく、私たちは最後まで残っていたが、やはり寒さは体に負担がかかる。吹雪で私たちの髪は真っ白く凍ってしまった！私は不幸なことに前髪があるので、額に凍った髪が額にくっつき脳が凍結した感じになった。花火が終わると早足でホテルへ戻り、すぐに暖かい温泉へ向かった。

カリフォルニア州出身の私にとって、このような祭りは北海道だからこそ魅力だと思う。骨まで凍り付くような寒さ、氷の世界、雪の中で楽しむ露天風呂。北海道に来なかったら、一生分からなかっただろう。このような経験ができる北海道に住むことができ本当に幸運だと思う。次の旅が楽しみだ！



まつりの様子



オーロラのような光



氷のドラゴンに食べられてしまった！



氷瀑神社



天井から垂れ下がるつらら



スノーシューからみた景色



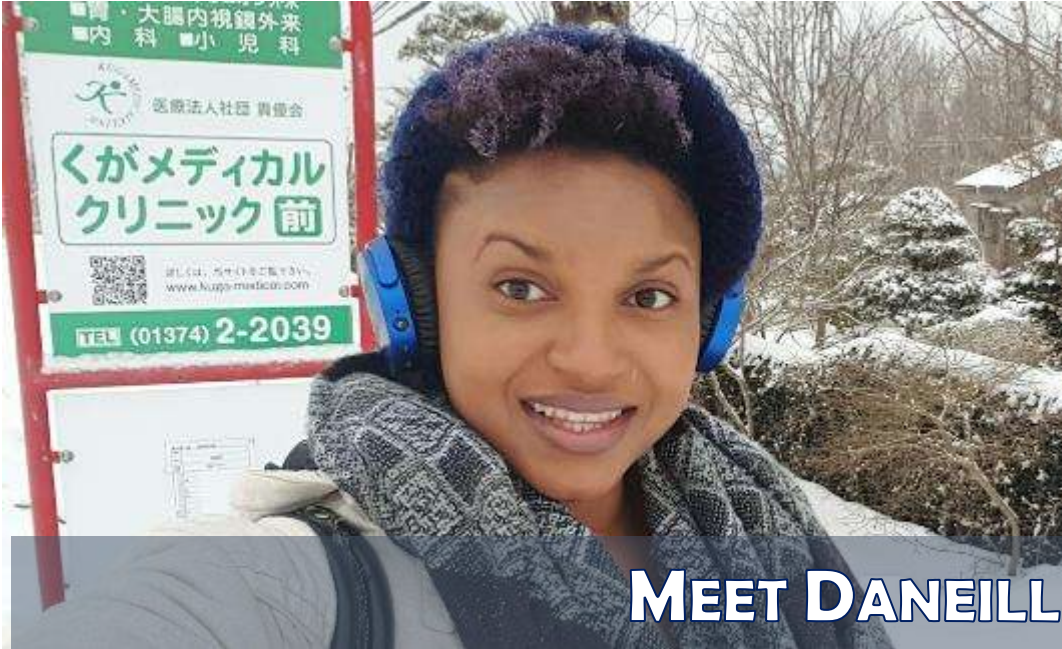
氷の建造物の中へ



北海道 JET スポットライト



北海道にはアメリカ、カナダ、シンガポール、中国、韓国、ドイツ、フランス、ロシアなどから約250人のJETプログラム参加者(外国語指導助手、国際交流員、スポーツ国際交流員)がいます。赤レンガ通信ではたくさんの国々からやって来て現在北海道で暮らす人たちのストーリーを伝えていきます！



デニール・オニールは道南に位置する森町の外国語指導助手(PT)4年目で、ジャマイカのセント・キャサリン教区のポートモア市出身。さまざまな経験をして、北海道での生活を思いつきり有意義に過ごしています。女だけの相撲大会で2位になったこともあります！

MEET DANEILLE O'NEIL...

なぜ北海道へ来たのですか。

A 一言で言うと、大学の友人のおかげです。大学の日本語の先生がJETプログラムを紹介した時、皆必ず日本へ行くことと決心しました。残念ながら、全員一緒にJETの試験合格とはならず、私を含め、合格できなかった人は次のチャンスまで待たなければなりません。一年後に合格した人は、既に友人が住んでいる都道府県を選んだのです。それに加えて、ずっと冬が寒いところに住みたいと思っていました。北海道に着いたときに故郷を思い出し、その景色に心を奪われました。やはり北海道は自分にとってのベストチョイスだったと実感しました。

これまで北海道の経験はどうですか。

A 想像した以上に素晴らしいです。こんなに町の人に受け入れられるとは思っていませんでした。山に登ったり(二度としないけど…)、相撲大会に参加したり、料理教室に行ったり、ジャマイカで想像もしていなかった様々な経験ができました。今年も何が起るのか楽しみです。

これまで一番印象に残っていることは何ですか。

A 難しいですね。いくつか思い浮かびますが、一番印象的な思い出は26歳の誕生日です。日本の母から下駄とハンドバッグ、髪飾りまで含まれている浴衣セットをもらいました。それに、小さなサプライズパーティーも開いてくれました。私は簡単に泣かない人ですけど、そこまでしてくれたことに感動して、涙があふれてきました。

森町の好きなところはどこですか。

A 素晴らしい景色と優しい人々です。北海道にはあらゆる階層の外国人が住んでいます。様々な背景を持つ人たちが皆仲良く共存していて、家族みたいになっています。自分の住むところが北海道で一番景色がきれいだという人が多いと分かっていますが、森町だって負けていません。美しい山の景色、そして道内屈指の花見スポットがあります。

他に伝えたいことはありますか。

A 北海道及び日本で経験してきたことはほとんど感動的で素晴らしいことです。しかし、戸惑うこともあります。例えば、私は地域で初めての黒人でした。そのため、興味本意の視線を浴びたり、色々質問をされました。その中には侮辱的なものもありました。町のスーパーに初めて行ったとき、ある年配の女性が後ろから来て、急に私の髪をつかみました。びっくりして後ろを向くと、彼女は目を合わせずに逃げて行きました。私の国では、興味本位でもそんなことをする人はいません。急に髪をつかむより直接私に聞いてくれればよかったのと思います。お互いにもっとよく理解できるよう、このような経験を生徒たちに話しています。私の話を聞いて、当然皆びっくりしたし、今では生徒たちは私の肩を持つようになりました。授業で話し合うことで、生徒たちと彼らの家族に、外国人に対してそのようなことをするのは侮辱的だと伝えることができ、よかったと思っています。うれしいことに、授業で話し合った後、町ではそのようなことが少なくなりました。